

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600689	事業の開始年月日	平成 月 日
		指定年月日	平成 月 日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜三ツ沢公園		
所在地	(〒240-0062)		
	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町288-30		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年1月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年7月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常においては、健康面に配慮し、体操など身体を動かせる機会を多く提供しております。その一方で、ご利用者様の思いを大切に、日々お過ごしいただけるよう努めております。
毎月、季節に応じた行事を開催しています。
利用者様どうしのつながりを大切にしています。
今はコロナ禍で中々、地域との関りや繋がりが出来てはいたないが、出来る範囲で行っていきたくと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年1月24日	評価機関 評価決定日	令和5年7月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、市営地下鉄3号線三ツ沢上町から徒歩約15分、または横浜駅西口からバス便利用で最寄りバス停の岡沢町から徒歩3分ほどの高台に位置している。ゴルフ練習場の跡地に建てられたため周辺には民家がほとんどない。事業所からは横浜国立大学のグラウンドが一望でき、天気の良い日には富士山が望める。同時期に近隣に有料老人ホームと障害者施設が開設された。

【利用者の残存能力を生かした支援】
事業所は利用者が残存能力を生かせる支援をしており、入居前には行えなくなってしまった家事や趣味などが、職員の手助けによって、再び行えるようになった。訪問当日も利用者数人が職員と一緒に趣味の手芸を楽しんでいる様子が見受けられた。リビングの壁には共同制作した大作のしめ縄や初詣の鳥居が飾られていた。利用者は、職員と一緒に食器洗いや掃除機かけ、洗濯物干しなどの家事を行うなど、協働生活が定着してきている。

【法人の健康増進の取り組み】
コロナ禍で外出制限がある中、利用者の身体の健康、心の健康の維持、病気予防の法人独自の健康増進の4つのプログラムを実施している。毎日、利用者全員がいずれかのプログラムに参加している。夏祭りや秋の運動会等のイベントは、各事業所をオンラインで繋いで実施し、楽しんだ。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みんなの家・横浜三ツ沢公園
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	みんなの家・横浜三ツ沢公園
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念作成ができていない。	職員は、法人の事業理念である「お客様に寄り添い自分らしい暮らしをサポート」を踏まえ、利用者本位の暮らしの実現に向け、利用者の意思を尊重したケアに日々取り組んでいる。開所から10か月経過して職員も定着して、利用者の個性や思い、出来る事、得意な事などの把握もでき、事業所の方向性も見えてきたと管理者は感じている。職員のケアの統一のために、新年度に向け、事業所としての目標や、独自理念を職員会議で検討・作成する予定にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の開設の為地域住民との交流を持っていない。	コロナ禍の中での開所、また事業所の周辺に一般住宅がなく、自治会活動もない事などが重なり、地域との交流には至っていない。隣接する有料老人ホームや障害者施設の管理者とは、災害時の連携などで今後協力していくという話をしている。	ゴルフ練習場の跡地に建てられた事業所で周辺に民家がないなど特殊な事情はありますが、地域の有力者である事業所オーナーの力を借りるなどして自治会との関係を構築することや、隣接する施設の管理者とコミュニケーションを図って、関係を構築することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の開設の為地域住民との交流を持っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で場を作るなかなか機会が取れていません。	開所から現在に至るまで対面での運営推進会議が叶っていないが、事業所の活動報告書を作成している。今後、自治会の役員に参加を依頼したり、地域包括支援センターとの関係強化を考えている。またホームの活動報告書を家族や行政に郵送して意見を聞く予定にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在連携を取れていない。	現在は保土ヶ谷区の高齢・障害支援課や地域包括支援センターには運営上必要な相談事を行っている。横浜市からはコロナ感染予防対策としてマスクや消毒液などの配布を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないために定期的な会議や職員間の声掛けをしている。玄関の施錠は行っているが職員と一緒に出来るようにしている。	身体拘束適正化委員会は3か月ごとに行っている。ケアリーダーを中心として、当日に勤務している職員が参加している。委員会では本部から提示されたテーマを中心に事例をあげ検討している。入居直後、帰宅願望が強く離設した方がいた。離設に至った理由として、その方が骨折をし、入院から病院、老健から入居に至った事を自分に置き換えて職員に考えてもらった。一度自宅に帰宅してもらってはとの意見から、家族の協力を得て実現した。帰宅したことで落ち着き、帰宅願望があまりなくなった事例がある。利用者への「待つ」という言葉がけの際には、なぜ待つてもらうのか、理由をしっかりと伝えることが大切と管理者は職員に指導している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないために定期的に会議を実施している。	「虐待防止の指針」を定め、運営規定や重要事項説明書で説明をしている。職員は「不適切ケアのチェックリスト」で日々のケアで何気なく行っている事や、利用者への声掛けなどを振り返り確認をしている。3か月ごとの委員会の開催や定期的な研修を行い、職員全員に虐待防止を周知徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をあまり持てていませんが、個々の支援は行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて不安等聞くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、コロナ禍で家族会など集まれる機会がない。面会や電話等で	コロナ禍での開所で、家族が参加できる行事や自由な面会ができない状態が続いているため、できるだけ家族の要望などを汲み取るために小さな出来事も電話連絡などを行っている。毎月利用者ごとの様子を伝える「一言通信」に加え、本年1月から事業所全体の活動などを伝える広報誌を発行する予定にしている。ホームページのブログでもタイムリーな利用者の様子を伝え、家族から「様子が分かり安心した」との声が上がっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を行い、提案をいえる機会がある。	毎月フロアごとに1時間半から2時間くらいの時間を取り、ケアカンファレンスを兼ねた職員会議を行っている。開設時はゼロからのスタートですべて一から始めることが多く、職員が活発に意見を出し合い、ひとつひとつ積み上げて来たため管理者以下職員は感じている。また職員の意見から、各フロアのスケジュール等は管理者があまり口を挟まず、フロアの実情に合わせて決める事になっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの環境、雰囲気大切に向上心を持って働けるようにしています。	職員の目標設定をもとに管理者が人事考課を行っている。法人のハラスメント相談窓口や、産業医に相談ができる体制があり、風通しの良い職場環境づくりを目指している。職員ヒアリングにおいても働きやすい、仲間がよい、管理者にも話がし易いなどの声が上がっている。法人は、産休や育児、定年後の再雇用制度などを整備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々、力量などを配慮しながら進めています。	法人のキャリアパス制度があり、資格取得や研修受講の際は費用負担や勤務扱いとするなどしてバックアップしている。資格取得後は、報奨金や資格手当の支給がある。無資格者には法人の研修機関で初任者研修や実務者研修が費用負担なく受けられる。本年2月からeラーニング制度を導入し、介護の実技、理論などの研修を非常勤職員も含めて、個々の都合に合わせて受講できるようになった。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との関わりを持っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望むこと過去の生活などを聞き信頼関係を築くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の望むこと過去の生活などを聞きながら信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファなどを行い、必要な支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のお手伝いをしてもらうなどしてもらっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取り、入居後も一緒に関わっていけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍でできていません。	コロナの感染症対策のため知人や友人の面会はできないが、電話の取次ぎや家族が用意をした年賀状の作成や投函などを支援している。毎朝、化粧を習慣にしている方の継続支援や、手芸を趣味にしている方には職員が針の管理して一緒に作業をしながら支援している。訪問当日、ピンクのフェルトの生地でたくさんの花びらを作っていた方々がいた。リビングの壁には利用者の方々が毛糸やフェルトで制作したしめ縄飾りが飾られていた。食器洗いをしている方や、洗濯物を干したり畳んだりする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に過ごせるように会話の橋渡しを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談等行うよう意識しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望や状態を把握しながらご本人に合わせたケアをしています。	比較的介護度が低く、自宅にいた時は独居だった方が多い。入居前は日常使いの道具の使い方などがわからなくなり、不安が大きかった方も、入居後は常に人がそばにいる事で安心して発言なども安定してきた。そのため入居直後より自己主張もはっきりしてきている。把握した利用者の思いや意向は12月からタブレット入力をして共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の大切にしていたものを持ってきていただいたり、ご本人に合わせた環境を家族協力のもと作っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握するため日頃の様子やカンファをを行い、ケアを行っています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人のご希望を聞きながらカンファを行い作成しています。	利用者全員が新規入居のため新規の介護計画の見直しは入居後の生活になじめていない方から優先で期間の定めなく見直してきた。通常は短期目標6か月、長期目標を1年としている。毎月のケアカンファレンスで全員分をモニタリングしている。居室担当制を取り、アセスメントやモニタリングは担当者を中心にして全員が参加して話し合い、計画作成担当者に繋いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から様子を観察し、職員間の情報共有しケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに応えられるよう職員の技術向上などをし柔軟に対応できる様、取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部との関わりが持てていない状況です。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診以外でも連携をとりながら適切な医療を受けてます。	月2回、利用者全員が協力医（内科・精神科）の訪問診療を受診している。24時間オンコールに加え、伝えたい利用者の情報等はクリニックのネット掲示板を利用して情報の共有ができる仕組みがある。訪問時は医師にクリニックの看護師とかかりつけ薬局の薬剤師が同行している。月2回、歯科医が来所し必要な治療を行っている。週1回、歯科衛生士が口腔ケアのため、来所している。法人の訪問看護師が週1回、利用者の健康管理に訪れている。服薬管理システムの「服やっくん」を導入して誤薬防止に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、観察をし気づいたら看護師と連携を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係だけではなく、家族とも相談に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、事業所と話し合う場を作り説明をする予定でいます。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明している。現在重度化している方はいないが、最後までホームで看取ってほしいと希望する家族もいる。他の施設や事業所で看取りの経験があるベテラン職員が多く在籍している事などから、看取りの不安を訴える職員は今のところいない。今後、定期的に法人の訪問看護師による重度化や看取りに向けた研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応ができるように職員間で情報共有をしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練などを行い対策をしている	10月に利用者も参加して火災の避難訓練を行っている。2階の利用者が1階まで下りる事の困難さや、避難後の見守りなど課題が見つまっている。今後は隣接する有料老人ホームや障害者施設と相互協力関係を築くことを検討している。備蓄品は消費期限等を記載し、リストを作成して事業所内の数か所で保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重するためにコミュニケーションは大切にしています。	職員は人生の先輩である利用者への声掛けや接遇に配慮している。利用者には、名字にさん付けで呼ぶことが原則だが、名前で呼ぶこともある。ちゃん付けを希望する利用者には居室や1対1の時に限って対応している。タブレットに個人情報を入力する際は、利用者から離れた場所を選んでいる。管理者は、トイレ誘導の声掛けは特に羞恥心に配慮するようにと職員に伝えている。イベント時の衣装や写真等は利用者の意思を尊重し、決して押し付けないようにしている。個人情報を含むファイル等は施錠管理している。パソコンはパスワードを入力すればすべての職員が使用できる。	現在パソコンにパスワードを設定していますが、誰でも使用できる状態です。個人情報を扱うことを鑑み、重要な情報を含むデータには、フォルダーやファイルごとにパスワードをかける等、個人情報の保護、管理に努めることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話し、自己決定が出来る環境を作っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしたいのかを希望を聞き支援を聞いて支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んでいただいたり、身だしなみを大切に汚れたままにしないなど支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けと職員と一緒に進んでいます。	感染症対策や衛生面に配慮して委託業者からチルドや冷凍で配達されるものを温めて提供している。汁物もインスタントを使用し、事業所で調理をする事はほとんどない。誕生会は開所後しばらく行えなかったが、年明けから行う予定にしている。出前やテイクアウトは、家族の費用負担を考え行っていないが、今後は家族に相談をして取り入れる方向にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて必要があれば栄養剤を飲んだり支援をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアをしキレイにし状態も観察しています		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立できる場合はトイレを使用するよう支援しています	布パンツやリハビリパンツを使用して自立で排泄をする方が多く、現在、誘導が必要な方は2名である。自立でトイレに行ける方には、頻繁な声かけを控えて、自主性に配慮した支援をしている。在宅でリハビリパンツだった方が、事業所ではトイレの位置が分かり易いことや、職員による使い方の支援によって、失敗がなくなり、布パンツに改善した事例がある。日中誘導する方以外の方は、夜間も自立でトイレに行っている。オストメイト用の設備があるトイレがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動などで腹の動きの活性を促したりしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のタイミングを配慮しながら一ひとりゆっくり入浴できるよう、支援しています。	各ユニットの浴室に可動式の浴槽を備え、取り外しができるリフトを共用している。浴槽が左右にスライドする事で片麻痺のある方の介助が容易になり、職員の介護負担軽減に繋がっている。また、リフトを共用することで、浴槽を跨げなくなった利用者も湯に浸かっている。原則、入浴は週2回で同姓介助にも対応している。入浴を好まない方に、声掛けなど様々な工夫をして根気強く誘導したことで、最近は入浴時に「気持ち良い」との声が聞かれるようになった。浴室と脱衣場には暖房を備え、ヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて休んだり安心してもらえるよう行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解して症状など観察しかかりつけ医に相談したりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなど、ご本人に合わせた役割、支援をしています		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でご家族との外出の機会はありませんが、散歩や外気浴を出来るだけ行っています。	外出イベントなどはまだ実施できていない。玄関から事業所前の通りまでの広いアプローチを歩いたり、バス通りまでの道沿いを散歩する方もいる。またホームの玄関前には横浜市の地域緑化制度に沿って植えられた植え木が植えてあり、それを眺めながら外気浴をすることもある。今後季節の良い時期には、広い玄関前を活用して外でのリクリエーションをする事を検討している。現在、利用者は外出の代わりに動画による初詣、夏祭り、運動会など法人独自のリモートのイベントを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持はしていないが、本人が欲しいものなどがあれば使用可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を繋ぐようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱ないよう配慮し清潔を保つよう、管理しています。	リビングは広くゆったりとして、掃き出し窓からの採光も明るい。オゾン発生装置を設置して臭気やウイルス対策をしている。玄関にもエアコンを設置して外との温度差に配慮したり、玄関先の面会の際に活用している。リビングの壁には手芸の得意な利用者達が職員と共同制作した正月のしめ縄飾りや、初詣用の鳥居が飾られ季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在ひとりになれる場所は居室のみになります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなど使い慣れているものをなるべく使用していただける工夫をしています。	居室にはベッド、寝具一式、エアコン、照明、クローゼット、チェスト、防災カーテンが用意されている。各室に温冷完備の洗面台を備え、利用者は自らの整容の際に活用している。居室の窓の内側に法人が開発した一定の幅しか開けられない換気用の鍵を設置して、利用者の安全確保に努めている。利用者は使い慣れた筆筒や机、テレビなどを持ち込み、家族の写真や自作の作品などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできることを活かすためにやってくれることは安全に配慮しながら行ってもらおうようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームみんなの家・横浜三ツ沢公園

作成日

令和5年7月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域とのつながり	地域に知ってもらう。	コロナ禍で地域とのかかわりが無かった為、地域の方にグループホームがあるという事を知ってもらい地域貢献をしていく。	6ヵ月
2	48 49	役割、日常支援	利用者様が充実した毎日を過ごせる様支援する。	開設して1年が経ち、利用者様も職員も新しい環境に慣れたので、さらに利用者様が充実して過ごせるような支援を考え行っていく。	6ヵ月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。